

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5880m付近と5820m付近の強風軸が合流しているボッ海～日本海～東北地方～日本の東に前線の雲バンドが停滞。前線上の擾乱の接近・通過により新潟県から東北南部で猛烈～激しい雨を観測。
- ② 前線南側の関東地方でも湿った空気の流入と気温上昇の影響で平野部の地上風収束域で非常に激しい雨が降った。
- ③ 地上の高気圧の中心が西日本の南海上にあり西に移動。西日本中心に850hPa 21℃前後の暖気に覆われている。対馬近海を東北東進する上層寒冷低気圧の周辺では背の高い対流雲を生じやすい。留意。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、500hPa 5820m付近と5880m付近のトラフが位相を合わせて通過する26日の日中までは正渦度が大きく、活発な状態が続く。その後27日にかけてはリッジが沿海州と朝鮮半島にそれぞれ進み上空の風が弱まって、前線は西から不明瞭化しながら南下。日本海からの下層暖湿気の流れ込みは弱まるが、寒気を伴うトラフが500hPa5820m付近を接近するのに伴い、26日には日本海沿岸に小低気圧が発生し、これを含む気圧の谷が27日にかけて停滞する。トラフに伴って前線に向かう下層暖湿気の流入が北陸地方～東北地方で強まって、断続的に激しい雨や非常に激しい雨が降って再び大雨となる所がある。前線に近い関東甲信地方でも下層暖湿気の影響を受けやすく、日中の気温上昇の影響が加わって、局地的に雷を伴って激しい雨の降る所がある。北陸地方ではこれまでの大雨で地盤が緩んでいる所があり、26日にかけて土砂災害に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。東北地方と関東甲信地方では26日にかけて、低い土地の浸水、河川の増水、土砂災害に注意・警戒。
- ② 西日本～東北地方では27日にかけて、下層暖湿気や上空の寒気、前線の南側では気温上昇の影響が加わって大気の状態が不安定となる。落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。要因が多く重なる地域では大気の状態が非常に不安定となり、竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項③の高気圧は、26日にかけて東シナ海に中心を移しながら、引き続き西・東日本と南西諸島を覆う。ここ数日と同じ要因により、25日日中も引き続き気温がかなり上昇する。東～西日本を中心に広い範囲で猛暑日となり、一部地域では酷暑日となる。熱中症などの健康管理に一層の注意が必要。27日にかけては、前線が南下する東日本では猛暑の範囲は縮小するが、西日本や南西諸島では続く。
- ④ 台風第12号は、発達しながら南シナ海を進み26日には華南に上陸。台風を波源とするうねりの影響で沖縄地方では波が高くなる所がある。沖縄地方では25日はうねりを伴った高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本とする。量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量（06時からの24時間）：北陸120、東北100mm。② 波浪（明日まで）：沖縄3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 全般気象解説情報（大雨・落雷・突風）を05時頃発表予定。